



第22回日本抗加齢医学会総会

イブニングセミナー3

今増えているLOH症候群 ガイドラインにそったテストステロン検査の活用と テストステロン補充療法の実際

OH

更年期障害は男女とも性ホルモンの低下によって引き起こされる心や体の不調です。

女性の更年期障害は女性ホルモンのエストロゲンの急激な低下によって閉経前後の約10年間に起こるのに対し、男性の更年期障害はテストステロンの減少が特徴です。ただし女性の更年期はすべての女性に起こるいわば「遺伝子にコードされた」生命現象と言えるのに対し、男性の「更年期」障害の多くは、テストステロンの減少に伴う「病気」です。男性でテストステロンが減る原因の多くはストレス、過労や、退職による社会からの隔離に伴うものです。成人になるまではテストステロンが問題なく分泌されているながら、中高年になって、テストステロンが下がってくる状態を加齢に伴う性腺機能低下症 (Late Onset Hypogonadism)、の頭文字を取って、LOH症候群と呼ぶようになりました。

LOH症候群の診断は、メンタル、身体症状があり、午前中の血液中の総テストステロン値が250ng/dl (=3.0ng/ml)以下であることとしています。症状があっても、総テストステロン値が250ng/dl以上の場合、血液中のフリーテストステロン値を測定し、30~40歳代の下位5%に相当する7.5pg/ml以下をLOH症候群の基準としております。(LOH症候群 診療の手引き2021)

このセミナーでは、LOH症候群の診断と治療、特にテストステロン補充療法について詳しくお話しします。

日時 2022年6月18日(土) 16:20~17:10

会場 第4会場 (大阪府立国際会議場 グランキューブ大阪10F 会議室1001-2)

座長 田中 孝 先生
医療法人社団聖敬会 田中医院 田中消化器科クリニック 理事長

演者 堀江 重郎 先生
順天堂大学大学院 医学研究科 泌尿器外科学 教授